

内閣官房・内閣府本府等行政事業レビュー  
「公開プロセス」  
議 事 録

赤坂・京都迎賓館参観経費

○会計課長 それでは、時間でございますので、ただいまから議題の3の「赤坂及び京都迎賓館参観経費」に入ることといたします。引き続き、よろしく願いいたします。進め方、それから、時間配分はこれまでと同様でございます。よろしく願いいたします。

早速、事業所管部局から5分程度で事業の概要を御説明ください。

○説明者 迎賓館庶務課長の春山と申します。どうぞよろしく願いいたします。

迎賓館の参観につきましては、資料1にございますように、明日の日本を支える観光ビジョン構想会議でも出されております「視点1、観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」とございますように、その中に赤坂や京都の迎賓館を始め、我が国の歴史や文化にあふれる公的施設を、大胆に、一般向けに公開・開放し、観光の呼び水とする。

また、本年5月13日の観光立国推進閣僚会議におきましても、アクションプログラム2016の中で、赤坂迎賓館については、歴史と伝統にあふれる施設の魅力を内外に発信するという事で、4月19日から、接遇等に支障のない範囲で一般参観、自由参観ということで公開をしているということ。また、京都につきましても、ゴールデンウィークの期間に実施をして、こういった試験公開の結果を踏まえて、7月下旬をめどに一般公開を通年で公開することになっております。この公開につきましては、個別に別途説明をさせていただきます。

○説明者 迎賓館運営課長の北川隆行と申します。

まず、2月に12日間、試行をやりました。試行の結果を踏まえて、4月から通年公開を行いました。2月の試行は、まず、参観料を徴収しておりません。これは12日間やったのですけれども、累計で7万7,386名の方が参観されました。1日平均で見ますと、約6,400名の方が参観されたと。建物の中、本館と別館ですけれども、ここは平均で1日2,400名の方が参観されました。1日2,000名から3,000名ということで定員枠を設けました。結果としましては、98%の方が非常に満足だったという意見を述べておられます。

通年公開のほうなのですけれども、4月19日から5月13日まで、21日間、まず最初の期間として行われました。

○会計課長 資料何番ですか。

○説明者 済みません。資料10です。資料10をごらんになっていただきますと、4月19日から5月13日まで21日間、通年公開の最初の期間が行われまして、累計で参観者数12万6,784名、平均で1日6,000名の方が参観されています。建物は本館と別館がありますけれども、そちらは1日平均で3,250名の方が参観。定員は当初3,000名だったのですけれども、5月3日から4,000名に増加しました。

アンケートの調査結果なのですけれども、基本的に、満足62%、まあ満足36%という結果で、全体で見ると、98%が肯定的な意見を表明しています。

以上です。

では、京都のほう、お願いします。

○説明者 迎賓館京都事務所長の堀金と申します。よろしく願いいたします。

資料13をご覧くださいと思います。京都迎賓館では、4月28日から5月9日までの12日間、試験公開という形で公開を実施いたしました。1日の平均参観者数が、前半1,501名、後半が1,933名。アンケートの結果を集計いたしますと、申込方法について、当日受付方式と事前申込方式の併用が適当と答えた方がほぼ半数。有料化については、1,500円未満の有料化が適当と答えた方が9割近く。人数制限については、定員が1,500名のときと2,000名のとき、どちらの場合も今回の試験公開程度でよいという答えをされた方が7割以上。公開方法については、6割以上の方が「少人数のガイドつきツアー」か、または自由参観方式の併用と、何らかの形でガイドツアー方式を望まれている。感想については、9割以上の方が満足、まあ満足という回答をいただいております。

この結果を受けまして、通年の公開を実施することになっておりますが、大変申しわけございませんが、今の時点で詳細は決まっております。今、決まっているのは、7月の下旬に公開をすることと、それから、参観料について、今、パブコメをやっている最中でございます。そのパブコメは、自由参観方式の場合、大人1人1,000円、団体が800円、中高生が500円、中高生の団体が400円、ガイドツアー方式が大人1,500円、団体が1,200円、中高生が700円、団体が600円という形でパブコメをしているという状況でございます。

以上でございます。

○会計課長 それでは、本件事業を取り上げました視点、それから、議論すべき論点について説明申し上げます。

本事業につきましては、従来の期間を区切っての公開方針を大きく転換いたしまして、観光立国実現のための目玉政策の一つとして、赤坂では4月から、京都は7月下旬からということで通年公開方針に切りかえていくということでございまして、マスコミ等でもたびたび御紹介いただいております。国民の関心も非常に高いということでございまして、公開の場で外部の視点による点検を行うことが有効であろうと判断されたものでございまして、4月28日の外部有識者会合における議論を踏まえまして、公開プロセス対象事業として選定したものでございます。

議論すべき論点につきましては、迎賓館を公開することが、賓客外交の意義や、我が国の迎賓施設の重要性について、広く国民の理解を深めることに貢献しているか、これが1点目でございます。

2点目は、公開時の運営方法は適切であるか、また、今後、観光立国に資するためのより効果的な運営のために、どのような見直しが考えられるか。

以上2点が論点になろうかと思います。質疑、議論に入ります前に、同志社大学の山谷先生、本日、御欠席でございますけれども、事前に京都の迎賓館の御視察をいただきまして、所感をメールで寄せていただいておりますので、大変恐縮でございますが、私から口頭で紹介させていただきます。

山谷先生は、視察をした結果、公開について、やや消極的な感じも持ったということでございます。仮に公開するということであるとするならば、いろいろ条件を整備してい

ないといけないのではないかというコメントでございます。その理由として、京都の迎賓館は非常に技術の粋を集めた美術工芸品のようなものである。したがって、公開を考えていくとすると、見に来られる方を性悪説で考えて体制を見直す必要があるということ。それから、その施設、設備が棄損、破損された場合には、多大なコストと時間が必要である。それを予防するための体制には多大な費用、人員等が必要であって、それを用意しないまま公開するとすれば無責任ではないかという御意見。それから、そもそも京都迎賓館は一般公開を前提としてつくられておらないということですか、国賓をお迎えする施設でございますので、テロ対策などもよく考えないといけないのではないかということで、賓客が泊まる部分についてはもちろん参観の対象外ではございますけれども、間取りとか、部屋の配置などがテロリストにわかってしまうようなことがないようにといった御意見をいただいております。

委員の皆様方には、事前に赤坂、京都をご覧いただいた方もおりますし、ご覧いただけなかった方には写真で事前に様子などもお伝えさせていただきましたので、新しく始まったばかりの事業でありますけれども、無駄の削減の観点はもとより、より効果の高い事業に見直すといった観点から御議論いただければと思います。よろしく願いいたします。

○会計課長 それでは、どなたからでも。南島先生、お願いします。

○南島先生 御説明ありがとうございました。

事前の勉強会ですとか、あるいは視察の中でお話をずっと伺っておりまして、1つわからないのが、迎賓館をどういう観点でそもそも評価をしたらいいのか。要するに参観経費のお話ですので、どれくらい見ていただいたかということが軸になるのだと思いますけれども、迎賓館そのものを、そもそもどういう視点で全体を見たらいいのか。その一部が、要するに参観経費の話、一般の方にどれだけ見ていただけるかというお話であると思いますが、ちょっと全体像がわかりにくいなと感じておりますので、そこを御説明いただければと思います。

○説明者 1つは、参観された方の満足度というものがあるかと思います。どれだけ来ていただいて、参観料をお支払いいただいておりますので、満足していただけるかということ。もう一つは、今、お話ございましたように、入場者の方、4,000名という枠を設けておりますので、こういった中でどれだけの方が来ていただけるのかということが大きいと思っております。

○会計課長 南島先生の御質問は、迎賓館という賓客をお迎えする施設の中において、公開とか、参観をしていくことをどういう形で捉えてということですか。

○南島先生 例えば、仮に独立行政法人という形態で運営することを想定した場合、賓客をもてなすという、先ほど山谷先生の御指摘もありますけれども、テロ対策とか、安全性とか、そういう観点も必要でしょうし、それから、一部公開をするということであれば、それに対して、どれだけ満足感が得られたかとか、あるいはどれくらいの方に来ていただいたかとか、そういうお話もあるかと思いますけれども、それが全体像として整理されて

いるのかという点が少し腑に落ちない点で、どれだけ来ていただけるか、満足度をどれだけ得ていただいたかというところに焦点がやや当たり過ぎているように思うのですけれども、全体像の御説明をいただけないかという趣旨で御質問申し上げます。

○説明者 御承知のとおり、迎賓館は、メインとしては接遇、外国の国賓や公賓の方をお迎えするという施設でございますから、そういったことでは、そこが一番となってまいります。そういった中においても、これだけの施設でございますから、多くの一般の方々、今、進めている観光立国の中で、海外旅行者の方々にも来ていただいて、こういった施設を理解していただく。外交であったり、国宝ということもございますので、そういう中で御理解いただくこともあわせてやっていくことを考えてはおります。

○南島先生 ありがとうございます。

申し上げたかったことは何かということなのですが、迎賓館そのものの全体の価値をどういう形で表現するかという話がまずあって、その一部を一般参観、通年公開という形で供しておられるので、通年公開のほうだけが先走るのもバランスとしていかなものかなと思っているわけですね。全体像の説明をしていただきたいなと思っていますし、その中での評価や効果の話は御説明いただいたほうが良いなと思っています。

○説明者 今、御議論いただきましたように、迎賓館は、まず第一に国の賓客を接遇する機関だと思います。これは外交上の機能として国がみずから行うべきものと考えております。一般公開をしておりますけれども、皆さんが来て満足していただくということは、効果として、我々としては認められると考えております。これは直接聞いているわけではありませんけれども、実際、生きた施設として、私が先ほど申しましたように、国が接遇する施設として機能しているというところが、皆様に満足して、あるいは外交というものを理解していただくことも含めて、一般の公開というものの意義があるかと思っておりますので、まず、国の賓客の接遇というのが基幹にあると考えております。

○会計課長 伊藤先生。

○伊藤先生 今の御説明からすると、多分、この施設の主たる目的はあくまでも賓客の接遇があって、あいている時間を観光に資するという意味で、どうやって公開をしていくかという位置づけということでまずはよろしいですか。

○説明者 大臣官房企画調整課長の渡部と申します。迎賓館の関係課ということで出席させていただきます。

これまでのところは、御説明させていただきましたように、基本は賓客の接遇をするための特別の機関でございまして、ただ、接遇を行っていない期間につきましては、これまでも夏場、一定の期間に限定をして公開した上で、賓客外交の価値ですとか、そのための迎賓館の役割を国民の皆様にご理解いただくように、そういう観点で行っていたということでございまして、今回、評価の対象ということで取り上げられておりますレビューシートもそういった観点かという理解でおります。

ただ、昨年後半以降、パラダイムの転換と申しますか、迎賓館の歴史と伝統的な価値、

国の施設の一つでございますので、そういった観点を踏まえた上で、国民の皆様ですとか、外国の観光客の方にも十分その価値を味わっていただくという観点で、一般参観の視点をより強化して拡大していくという方向になりまして、それは先ほど御説明させていただきましたような形で、アクションプランということで決定されているところでございます。

○伊藤先生 今のお話でいくと、主はあくまでも賓客接遇だと捉えるのですが、私、赤坂と京都、両方見せていただきまして、もちろん、1つの事業が1つの目的でなければいけないというものではないとは思いますが、ただ、主たる目的がどちらかによって、少なくともその事業の運営、今回でいけば、この施設の運営は変わってくるものだろうなと感じました。

例えば、赤坂で、仮に、より観光面を考えようとしたときには、もっと動線をわかりやすくしたほうがよかったですとか、申し込みの受付の仕方、何月何日から何日まで申し込みをしてくれた人については、メールをもって当選の発送にかえさせていただきますという、従来の申し込みではないような手法、これは多分、内閣府のサーバーの中でやられていることによる制約があるだろうなと感じました。今、あそこの中で誘導されている委託事業者は警備の事業者であって、ある意味では警備の観点でやられているけれども、もしこれがより来られている方のことを考えようとしたときには、エンターテインメント的視点を持っている事業者が入ってきたほうがよかったですとか、いろいろ見ていると、1観光者として来たときには、こうしたほうがいいなということがたくさんあったのです。ただ、お聞きしていると、あくまでも賓客接遇が主だということもあるから。

○河野大臣 ちょっとそこは違って、賓客がいらっしゃっているときには、もちろん、そこは接遇の場ですから、それは最優先されて、そのときには一般公開はないわけですが、接遇に使っているというのは1年間の中のほんのわずかなわけですね。それ以外の期間は積極的に一般公開をしていこうという、国の施設の開放の中の対象なわけですから、接遇をしていないときには、観光客に向けて公開をするというのが最大の目的だと。だから、接遇をしているときと、そうでないときと、1年間の日付の割り振りはありますが、接遇するときにはもちろん接遇が最大にして唯一の事業になりますけれども、それ以外は、いかに国の施設をしっかりと国民の皆さんに、あるいは外国から来たインバウンドのお客様に見せるかがほぼイコールだと思っていただいても構わないと思います。

○伊藤先生 その意味では、この間、お話を伺ったときに、接遇のタイミングになると、例えば、今、張ってある動線を全て撤去する。あと、簡易プレハブのトイレも撤去されるというように、そのタイミング、そのタイミングで変えておられる。もし先ほど私が申し上げたような観光という視点を強く持とうとすれば、待っている間に、できればモニターで説明があったほうがいいのか、いろいろなことを感じたのですが、そこは、先ほど大臣がおっしゃった、接遇のタイミングと観光のタイミングの線の引き方だとは思いますが、私が感じたのは、まず赤坂のほうで申し上げれば、その線は現時点においてはまだまだ観光対応ということにはなっていないのではないかと感じたのですが、御担当なのか、大臣

なのかわからないのですけれども、お聞かせいただければと思います。

○説明者 一般参観につきましても、本年4月から赤坂で開始をしたばかりでございまして、現状ではさまざまな御指摘などもいただいているところでございますので、そこは今後、改善に向けて、不断に見直しをしていきたいと思っております。

○伊藤先生 少なくとも位置づけとしては、先ほど大臣がおっしゃったような、あいているときは第一目的は観光なのだと。これは結構、考える上で重要な気がするのですね。

○説明者 アクションプランにおきましても、接遇に支障のない限りとございますので、接遇が行われていないときには、観光客の方、一般の方にも迎賓館の魅力を楽しんでいただくという観点になるかと思っております。

○会計課長 今井先生、その後、石堂先生。

○今井先生 あいている時間に観光にという国の政策ですので、その範囲でどういうことが予算の使い方として一番いいかということだと思っておりますけれども、私も赤坂と京都、参観させていただきましたが、さっきの山谷先生の御意見、かなり共通する部分が多いです。日本人の方が見て回るときには対応も予想の範囲というのは相当聞くのですけれども、今後、いろいろな国の方が来られたときに、特にああいう施設がないところから来られた方は大変感動されるでしょうし、私たちの予想を超えたような行動も思わずなされるかもしれない。そういったことを考えまして、セキュリティのレベルは上げるべきであろうと思っておりますし、そのための予算の適切な配分と執行をぜひお願いしたいと思っております。

また、しばらくたってからの検証になるのだらうと思っておりますけれども、お客様が来られたことが観光立国の政策目的の一つの達成の基準にはなると思っておりますけれども、それだけではちょっと寂しいので、日本文化に対する理解の度合いが進んだのかどうか、例えば、出口等で検証できるような仕組み、あるいは後々、皆さんの御意見を聞くようなことがあっていいのではないかという感想を持ちました。

1点戻りますと、セキュリティのレベルについても、備品等に対するセキュリティと、赤坂や京都に賓客が来られたことを考えて、今後とも、本当にそこは十二分な配慮が必要だらうと思っております。さもないと、他国においてありますけれども、それは歴史的遺物となってしまっていて、実際には来賓の方はセキュリティの高いシティホテルに泊まるということも、国によっては結構起きております。そうなりますと、2本の柱を両立させるという目的とは違ってきますので、今、始めるところでありますけれども、それなりの予算をつけて、一度たりともそういうことがないような体制をとっていただきたいと思います。

以上です。

○会計課長 石堂先生。

○石堂先生 私、何年前かに迎賓館の話聞く機会がございまして、そのときに、非常に限定的ですけれども、一般公開をやっていたということで、しかも、一般公開をするとき

には物すごい応募率、応募の希望があるというお話を聞いて、そのとき、即座に、それだったら参観の部分については旅行会社に任せたらどうですかと、非常に過激なことを申し上げたことがございます。今、資料などを見ていると、近くまで来たなという感じを受けるのですね。ただ、前回のお話を聞いたときに、私が言ったのは非常に突飛に聞こえたと思うのは、何せ皆さんのほうは賓客外交に対する国民の理解を高めるためにちょろっと見せるのだという感じが強くて、観光のため、物見遊山のためなどという感じは全然なかった。だけれども、今回は、3月のまさしく転換があって、観光資源として新たな位置づけを得たという中でものを考えていくということで、随分違っているのだろうと思うのです。

ただ、レビューシートを今回見ていくと、3ページの国費投入の必要性のところ、事業の目的は、国民や社会のニーズに的確に反映しているかというのは、人数を超える応募があるから大丈夫ですと言っている。これは観光のほうに軸足を置いた答えになっていますけれども、その下、あるいはさらにその下のあたりは、事業目的というところで、国の迎賓施設であるから、全てを他者に委ねることが難しいとか、さらにその下には、従来どおり、国賓等の迎賓施設の役割について、国民の理解を深めていくかどうかポイントだという書き方がされていて、通常、我々が考える、観光に来た人が何を感じるかということとちょっと離れているような気もするのですね。もちろん、国民の理解が深まるということが必要ないとも思いませんし、それがあってもいいと思うのですけれども、観光資源を見に来る人はみんなそれぞれの気持ちで来ますから、国の側がこうあるべきだと決めて取りかかるのはいかがなものかなという気がいたします。

これが長い前置きですけれども、今回いただいたレビューシートでいくと、1ページ目で平成27年度の予算が1,900万円だと。平成28年度は2億7,500万円だと。赤坂のほうは、単純にあれば15倍程度、前年よりもはね上がっているのですね。京都のほうは2倍くらいになっています。これは、重大な政策の転換があったから、観光客を迎え入れるために新たなことが必要だという、一時限りの費用と認識していいのかどうかを確認したいというのが1点です。

それから、もう一つは、同じレビューシートの4ページに資金の流れがございましてけれども、ここに一般競争入札なり随契なりで9つあります。これ、ざっと中の事柄を見ていくと、右上のところにある盆栽に関するもの以外は、一般的に旅行会社であれば全部やってくれることではないか。それぞれに迎賓館が業者を探してきて、ここと契約しよう、ここと契約しようと頑張らなくても、一括してどこかの旅行会社に任せれば全部やってくれそうな感じを受けるのです。これは先ほど来の議論で、いやいや、迎賓館の場合はそうはいかないのですということなのか、まだ始めたばかりなので、従来、限定的にやっていたときの流れに沿って、それぞれと契約していますというだけなのか、そこをちょっと確認したい。この2点の確認をお願いしたいと思います。

○会計課長 迎賓館、お願いします。

○説明者 まず、1点目でございますけれども、平成28年度の予算についてでございますが、赤坂迎賓館につきましては、平成28年度、参観に係る経費として新たに経費を積んでいる状況でございます。この金額になったところは、特に運営経費の関係が、これまでの日数よりふえて、150日というところでふえてきたところがございます。

今、お話がありましたように、もう一つの赤坂の関係でお話ししますと、契約につきましては、これまでの経緯がございまして、こういった形で個々に契約をさせていただいておりますが、今後、いろいろな契約の方法が出てくる、今、御指摘の点もございますので、見直しができるところについてはぜひ見直しをしていくべきではないかというところがございますが、現在の形につきましては、これまで夏に毎年行っていたという経緯もございまして、そういったところで、このような形で実施をしているところではございます。

○石堂先生 赤坂のほうが平成27年度に比べてぼんとはね上がったのは、私が確認したかったのは、運営経費が膨れたということですが、これは体制を整えるために、平成28年度、一時的に膨らむものであって、平成29年度以降は前年並みに戻るといえるかということをお聞きしたかったのです。

それと、もう一つ、ついでながら、参観経費以外に、例えば、赤坂なら赤坂の迎賓館の一般的な維持管理費は年間どのくらいかというのも教えていただければありがたいと思います。

○会計課長 予算のほうでは、資料3もあわせてごらんいただければよろしいかと思えます。

○説明者 現在、平成28年度につきましては、一応、150日程度を見込んでおりますので、この日数がふえることになれば、運営経費等もふえてくることになってまいるかと思えます。

また、維持管理経費につきましては、資料3にございますように、平成28年度につきましては、一般公開運営経費、これは人件費ですとか、物品管理、こういったものが多く占める割合となっております、そのほかに、今、御指摘のありましたように、インターネット関係もございますけれども、ここに入っていないようなところでは、光熱水料ですとか、そういったところが経費としては多くなっているところがございます。

○会計課長 資料3で言うと、例えば、X線検査装置とか、そういった装置的なものは、一旦買ってしまえば、それ以降ずっと使うと。それに対して、一番上の一般公開運営経費などは、公開をする限りは毎年かかってくる、こういう御理解でいいかと、こういうことでしょうか。

○石堂先生 そうですね。

○説明者 物品につきましては、購入すれば、物としては一時的になります。その後、メンテナンスに係る経費も若干かかってくるのかもしれませんが、今、お話にもございましたように、公開運営経費につきましては、毎年同じようにかかってくるものでございます。

○会計課長 石田先生、お願いします。

○石田先生 今に関連する話なのですけれども、資料3で、赤坂の迎賓館について、一般公開運営経費が2億1,200万円になるということなのですけれども、これは単純に今までの公開日数よりもふえるからという計算なのでしょう。それとも、ふやすと、今度、警備の内容とか、いろいろ変わると思うので、一般公開の日数をかなりふやすことに伴う警備なども含めて予算立てをされたものなのでしょう。日数をただ単純に掛け直したものなのか、中身を見直したものなのか、ありていに言えば、この2億1,200万円の中身を教えてくださいたいのです。

○説明者 内容的には、当初につきましては、日数を見直しているところがございすけれども、警備の面もございすので、こういったところも新たに充実させなければいけないというのもございす。両面から見て実施をしておりますけれども、今後、警備関係につきましては、また充実させていくというふうになってくるかと思ひます。

○会計課長 平成28年度予算は、平成27年度予算の日数を単純に案分してふやしたというものよりは、一般公開を広くやることによる警備体制の見直しなども含んでいるかと、そういう御趣旨の御質問だと思ひます。

○説明者 この内容につきましては、まだ警備体制は十分に把握されていない部分がございますものから、過去に行われた人件費等、警備関係を参考に積算をしております。

○河野大臣 見に行った人は、多分、警備とは別に、今までの赤坂迎賓館のスタッフの人たちがかなりイレギュラーな形で、今、対応してくれていますね。通年で一般公開をきちんとやろうとすると、もちろん警備の人はふやさなければいけないのですけれども、スタッフの数も、今のままでは到底回らないというか、誰か倒れてしまう前にしっかり手当てしておかなければいけないと思うのだけれども、しっかり通年でやろうとすると、迎賓館の職員、スタッフをふやすと、この項目はどれぐらい必要になるのでしょうか。ざっくりで。

○説明者 今、大臣おっしゃった項目といひますのは、運営経費ということでございすか。

○河野大臣 一般公開運営経費という、そこにもし人件費が入っているのだったら。

○説明者 今、お話しいただいたように、どれだけスタッフの数をふやすか、また警備員をふやすかということになってくるかと思ひますが、ふえる人数によって、まだ試算しておりませんので、細かい数字はわかりませんが、かなり人件費はかかってくるかと思ひております。

○会計課長 平成28年度予算を積算した段階では、積算のベースになるものが平成27年度までやっていた一般公開しかなかったのだから、積算上の制約みたいなものがございまして、加えて、実際にやり始めてみると、どこにどういふ人を張りつける必要があるかと、迎賓館のほうの事務方の体制としても、足りない分を中で応援をして、人を持ってきたりし

てしのいでいる部分などもございますので、そういう意味では、迎賓館のほうとしても、今の大臣の質問に確たるお答えはできないのではないかと。済みません、予算を担当している会計課長として申し上げます。

○石田先生 ついでにもう一つお伺いしたいのですけれども、収入の見込みに関しては、各迎賓館、京都も含めまして、どのぐらいと見込んでいらっしゃるのでしょうか。まだ確定しないのはわかっていますので、パブコメ中の金額で構わないのですけれども、どのぐらいの入場者数を見込んで、どのぐらいの収入があるのか、団体がどのぐらいの割合でというふうに掛け算しないとわからないので、それぞれについての収入の見込みを教えてください。

○説明者 収入につきましては、実際、5月のゴールデンウィークに実施しておりますので、そういった中で、1日300万円とか、そういう数字が出ておりますので、そういった中で1日当たり、その程度の収入を見込むことになってくるかと思えます。

○会計課長 今までの実績から言うと、1日当たり300万円ぐらいだと。ただ、年間何日できるかというのは、接遇の予定などによって変わってくると、こういうことでよろしいのですか。

○説明者 はい。

○河野大臣 さっきの京都の話は、この資料の中のデービッド・アトキンソンさんの話が出ているのだけれども、さっきおっしゃった数字は異常に低過ぎるよね。この話からしても。一体全体、性善説なのか、性悪説なのかという議論もあるけれども、誰に本当に見せようとしているの。中高生の団体料金、修学旅行も全部この京都迎賓館の対象としているのか。非常にコンセプトがいい加減で値段設定しているよね。ここでアトキンソンさんが言っているのは、きちっと価値に見合ったものを取れという話でしょう。さっきの京都迎賓館の料金設定は、とてもそれをやっているとは思えないので、それでパブコメをやって、だからどうなのというのは、全く意味のないパブコメになっているのではないの。

○説明者 京都迎賓館の料金設定につきましては、予算額から試験公開のときに参観者数、予算額が約2,000万円でございます、参観者数が。

○河野大臣 予算額って、何の予算額。

○説明者 試験公開をするとき用の予算額でございます。

○河野大臣 年間、月間、1日。

○説明者 年間でございます。試験公開の日数は10日間でございますので、その試験公開の日数の予算額が約2,000万円でございます。それで、実際にいらっしゃった方が2万603名でございますので、2,000万円を2万で割って。

○河野大臣 試験公開のときと、通年のときにきちんとしたサービスをやらなければいけないのと、全くコストが違ってくるでしょう。どれだけの説明をするか、どれだけのサービスをできるのか、音声ガイドをどこまで拡充したらいいのか。だから、10日間あげましたというコストは、たまたまあげたコストであって、それがそのまま通年公開のサービス

のコストになるわけは全くないよね。

○説明者 設定の考え方といたしまして、1つには、コストとして予算から人数を割った1,058円というのがあります。

○河野大臣 その予算というのは、単なる、あけてみたときにかかるコストでしょう。本当に通年公開をして必要なサービスをやるときのコストは幾らなの。

○説明者 そこはまだ明確に積算ができておりません。

○河野大臣 だから、その積算もしないで値段を決めても意味がないのではないの。

○説明者 申しわけございません。一つの考え方として、積算のコスト、それから、近隣のですね。

○河野大臣 後でいいから、説明してください。

○会計課長 伊藤先生。

○伊藤先生 私も同じように感じまして、特に京都を見せていただいたときに、正直言って感動したのです。本当にすばらしいものがそこにあるし、ある意味、文化が凝縮しているなと感じたのです。ただ、修繕の話をこの間もお聞きして、多分、それも含めた上で参観料は反映していかなければいけないし、あの際、我々は話をしていたように、1,000円というのはどう考えても安いのではないか。5,000円とか、1万円とか。そこはあわせて、私が冒頭聞いたような、少なくともあいているときは観光が一番の目的だということで考えるなら、見ているだけの情報よりも、いかにそこに説明がつくかということでの付加価値は明らかに違うなと思うのです。

赤坂であれば、今、イヤホンをつけていますが、私が行ったときには御担当の方からお話を伺いましたし、ちょうど私の知り合いで抽選で行ってイヤホンで聞いた人間がいたので話を聞いたのですが、やはりイヤホンというのは、その場、その場での臨機応変な解説ではなくて、一般的な解説になるというところを考えたときに、ちょうど私がお話を伺った際に、一般で来られていた市民の方が、ああいう話をしてくれたらもっとわかりやすよねとお話をされていたのもお聞きしたのです。というぐらいに、それをやればやるほど、要は、来られている方により満足をしてもらうとか、サービスの質を上げようとするほど、コストは当然かかってくる。では、そのコストをどこで取るかといったら、それは参観料で取っていくものだと思うのです。その中で、見に行った人間からすると、京都で1,000円と聞くと、あれと思うのですが、いかがでしょうか。

○会計課長 コメントシートの記入をあわせてお願いいたします。

迎賓館。

○説明者 ちょっとくどいようでございますけれども、コストとしての積算でやったのが1,000円程度だったと。それから、近隣の寺社仏閣の入場料が800円ぐらいであると。それから、アンケートの結果を見ますと、1,500円未満と言っている方が。

○河野大臣 いやいや、それがおかしいと言っているわけよ。物の価値をきちんと値段でもらわなかったら、修繕もできないでしょう。あれ、維持していかなければいけないのだ

から。さっき話があったように、たくさん人数を入れたら、当然、その分、修繕にもお金がかかるし、維持管理にもお金がかかるし、見てもらうためにはきちんとしたサービスを提供しなければいけないのだから、そのコストを全く計算していないで、隣のお寺が800円だから1,000円というのはいり得ないでしょう。

○石堂先生 収入は迎賓館に入るわけではないのでしょうか。そこはどうなのですか。

○河野大臣 もちろん、それはそうですが、トータルの国庫としては、出す分はどこかでいただかないと。

○石堂先生 直接的に迎賓館の収入ということにはならないという理解でいいのでしょうか。

○説明者 歳入として国庫に入ることになります。

○石堂先生 それはそうなのでしょうけれども、参観によってどれだけ収入が国に入ってくるか自体はわかるわけだから、やはりそのバランスは必要だろうとは思うのですね。恐らく、自分たちのところの予算はコストであって、収入は自分たちの予算でないという認識があるからではないかという気がするのですね。

○会計課長 ほかにいかがでしょうか。石井先生、お願いします。

○石井先生 済みません、何も発言しないで終わってしまうのもあれです。今、いろいろ議論あったところで、重ねてになってしまうのですが、レビューシートの4ページ、赤坂のほうです。この3,000万円というのは去年のものであって、実際、平成28年度、つまり、一般公開することによって、この3,000万円ではなくて、現状、予算の見積もりというか、積み上げはまだまだ改善の余地があるというきょうの議論だと思うのですけれども、これが2億7,500万円になって、相手先が出てくると。先ほど石堂先生からもありましたけれども、いわゆる旅行代理店というか、観光という面で見たときのノウハウのすごい高いところを参入させる計画だとか、ちょっとアイデア出してもらうだとか、そういった計画はあるのでしょうか。

私はスケジュールが合わなくて視察そのものは行けていないのですけれども、きょう、四谷の駅を通ったときに、四谷の駅にポスターが張ってあるのですね。赤坂の迎賓館はこちらと。つくられた方がいらっしゃるので、余り発言はあれですけれども、あっ、これ、きょう見るやつだとか思ったのですけれども、もうちょっと何とかならないのかなど。四谷の駅をおりると、恐らく警備の方だと思うのですけれども、メガホン片手に、きょうはもういっぱいですから見られませんみたいなことをアナウンスされている。それが先ほどあったように、観光とか、そういう目で見たときに、そういうのがどうなのかなみたいなものも、代理店の方とかを入れることによって、ちょっと変わってくるのではないかな。感想みたいで恐縮なのですが、今後予算を立てていく中で、旅行代理店のような方に、高いノウハウを持っているだろうと思われる方に入っていただく予定があるのかということろだけお聞かせいただければと思います。

○説明者 お話がございましたように、迎賓館にはそういった専門的な知識を持っている者がおりませんので、そういったところは今後、十分に検討させていかなければいけない

かなと思っております。

○会計課長 ほかはいかがでしょうか。南島先生、お願いします。

○南島先生 1つ、観光立国との関係で、外国のお客様、観光客にどれだけ来ていただけるのかというのも1つのテーマかと思えますけれども、これについては、例えば、前提についてはチェックもないので、特に把握もできていないということもあったかと思えます。事前の申し込みについては、予定が早い段階で明確に立てば、どんどん来ていただけるのかもしれないけれども、現在は必ずしもそういう体制になっていないというお話だったかと思えます。これは迎賓館だけの問題ではないかもしれませんが、外国の観光客を誘導するためには、何かお考えになっていることとか、こういう課題があるでも結構ですけれども、そこを補足していただければ幸いです。

○説明者 外国の観光客について、事前予約で把握できるようになっています。現状では、大体、1日80人から100人が把握できています。それ以外に、当日の整理券をもらって入ってくる外国人は把握できていません。

今後どうするかという話なのですけれども、外国人の方に何人かインタビューしました。どうして迎賓館に来られましたかと聞いたところ、たまたま時間があいたので、どこか行くところはないかとホテルのコンシェルジュか何かに聞いたら、迎賓館が一般公開しているらしいよという話を聞いて来たという方がほとんどだったので、来週、再来週を使いまして、都内の主要な、外国人が多く泊まるホテルの方々を集めまして、視察に来てもらうことにしています。その視察に来てもらうときに、英語のフライヤー、宣伝のビラをつくっておりますので、それをまず各ホテルの方に、47社にいらっしゃっていただくのですけれども、1人100枚以上、そのビラを持って、各ホテルのフロントなり、コンシェルジュの机の上に置いてもらって宣伝してもらおうと思っております。

あと、もう一つは、旅行業関係者の方にも迎賓館に視察していただいて、例えば、外国人のツーリスト、団体旅客との契約がある旅行会社の方がいらっしゃれば、そのルートに迎賓館を入れてもらえるように働きかけをしようと思っております。

○南島先生 ありがとうございます。これからということですね。

○説明者 まさにおっしゃるとおりです。

○南島先生 外国人の方に直接接触してお話を聞く機会があるということでしたら、そういうところでアンケートするなり、聞き取りをするなりで、どういう課題があるのか、旅行代理店もそうですけれども、よく整理していただければと思います。そこも一つの大きな政策目的ですし、最終的に効果、評価という話になってくると、その部分の説明も必要になってくるかと思えますので。

以上です。

○説明者 ありがとうございます。

○会計課長 ほかはよろしいでしょうか。どうぞ、伊藤先生。

○伊藤先生 正直言って、現場の方の御負担というのを行ったときにすごい感じたのです。

まさに今、急激な変化の過渡期なので、現時点でどうかというよりは、この後に向けてどういう改善策があるのかという議論がきょうだったと私も思っていますし、多分、受ける側の意識は別としても、既に来られている方たちは、テーマパークに行くことと余り意識としては変わっていないだろうなということを正直言って感じました。ですので、テーマパークに行くということを考えたときには、きっといろいろな細かなサービスについて気になるし、だから先ほどのような、もうちょっとこういう話を聞きたいなとかいうところに皆さんの意識が行っているのだろうなということを伺っていて感じました。

ですので、ここはぜひ、次に向けて、今ある人材の中で先ほどから出ているような、どこに行こうとかか、どういう誘導をしようかというのは本当に限界でやられていると思うのですが、きっとこの後は、外国人に来てもらうことを考えるに当たっては、中で考えるよりも、どう考えても、先ほど石井先生がおっしゃっていた代理店だったりとか、そういうところにこそノウハウがあるので、どうしても予算との関係があるかと思うのですが、というところを、今後、来年度に向けてなのか、考えていただければと、これは意見として申し上げたいと思います。

その意味では、インターネット申し込みは、現時点でもどこかまで改善できないのかなと思うのです。私自身、自分で使っていても、難しいな、使いにくいな、何月何日から何月何日までの参観希望の方はこの日で申し込んでください、先着順ではあるけれども、その1週間ぐらい後にならないと当落がわからないという環境は、今のシステムの中でも改善はできないものなのではないでしょうか。

○説明者 ありがとうございます。

インターネット御利用の方からいろいろ御意見いただきまして、現段階でも大分改善は、制約の中でしているところではあるのです。改善した点は、例えば、当初でありましたら、参観日の3週間前に当選通知が出ていたのですけれども、今は2カ月前に募集が始まって、6週間前には当選通知が出るという、かなり前広に当選通知が出るようになっていきます。申し込みのやり方が難しいという点につきましても、今はかなり簡略化して、余りいろいろな情報を入れなくても申し込めるようにしております。改善は進んでおりますと理解しております。

○会計課長 ありがとうございます。

それでは、ここまでの質疑、議論を踏まえまして、ここから取りまとめに移りたいと存じます。まず、票数の分布、コメントシートに記載されたもののコメントの読み上げの後、御議論いただきまして、最後に石堂先生からお取りまとめをよろしくお願ひします。

○石堂先生 点検の内容につきましても、事業の一部改善が4名でございました。事業の抜本的な改善が2名でございました。したがって、結論といたしましては、事業内容の一部改善ということにいたしたいと思ひます。

各先生の意見を見てまいりますと、全体としては、予算の額にしても、またコンセプトにしても、まだまだ検討が不十分なまま走っている感じではないかという指摘が多いと見

受けられます。むしろ一定期間後に整理する必要があるのではないかという意見もございました。また、外国人の導入とか、そういうことについても、いろいろと検討すべきことが残っているのではないかということでもございました。

これらの意見を勘案いたしますと、取りまとめとしては、観光資源として新たなスタートと位置づけられ、賓客接遇という本来業務とは期間を区分けして対応することとなる。その際、公開に来られる参観者、一般の観光への対応と賓客の接遇機能との調整を十分に図りながら、これを進める必要があるというところは異論がないのではないかと思います。本件の参観経費としては、まだ過渡期ではあるが、従来に限定した公開時の対応、また、契約形態等にとらわれることなく、通年公開によってふえるコストの抑制について、参観料のレベルも含めて検討していく必要があると思われるというところかなと思うのですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

（「はい」と声あり）

○会計課長 ありがとうございます。では、そういうことにさせていただきます。

○会計課長 ありがとうございました。

以上をもちまして「赤坂及び京都迎賓館参観経費について」の公開プロセスを終了いたします。

（休 憩）